

人権アラカルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。
人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

「孤独」を救う存在ツール

「孤独」とは何でしょうか。

ある研究者は、「自分が誰からも必要とされていないと感じ、辛さや苦しさに苛まれる状況」と定義しています。では、なぜ「孤独」が生まれるのでしょうか。

私たちは普段、移動（＝外に出かける）、対話（＝意思疎通を行う）、役割（＝仕事をする）などを行うことで社会に参加しています。しかし、何らかの理由でそれらが不可能になると、社会へのアクセス自体が閉ざされ、自分に無力さを感じ、人を避けるようになるという悪循環に陥ってしまいます。この社会への帰属感の喪失こそが「孤独」を生み、それが鬱や認知症の原因になるともいわれており、深刻な問題になりつつあります。

2022年度に行われた内閣府の調査において、ひきこもり状態にある人は、国内で約146万人と推計され、日本ではイギリスに次いで世界で2番目に「孤独・孤立対策担当大臣」が内閣に設置されました。

この「孤独」の問題を解決するために登場したのが、自分の分身となるロボットです。この分身ロボットは、いわゆるAIロボットではなく、①仲間と同じ瞬間を共有できる、②自分に合った働き方ができる、③誰かの役に立つことをあきらめないことを目的に研究・開発されました。

インターネット回線に接続されており、首や手の動作をはじめ、グループの会話にも参加できるため、遠く離れていてもまるで自分がその場にいるように感じることができます。

ということは、外出が困難な人なども、窓口で受付をしたり、テーブルで接客をしたりする仕事が在宅で可能となり、社会の中で役割を持ち、生きる希望を見出すことができるのです。

開発者自身も小学5年から中学2年まで不登校で引きこもり、「孤独」の苦しみを経験したことをきっかけに、分身ロボットの研究に取り組みました。

その後、交通事故により20年間寝たきりとなった友人と出会い、彼にこう言われたそうです。

「明日1日でも長く生きるために今日何もするなど言われ続けた20年だった。今日を自分らしく自分の人生を生きたい。」と。

様々な事情で外出できない人々が、人と人をつなぐ存在としてのツールを利用することによって社会とつながり、孤独・孤立を解消する一助となることを願っています。

